

地震学び備えを考える

松本秀峰1年生

松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋）の1年生（中学1年生に相当）80人が21日、地震をテーマにした特別授業を受けた。熊本、大分両県で地震が相次いでいるのを受けて同校が企画。今月就任した小坂共栄校長（72）信州大特任教授Ⅱが、信大で地質学を研究してきた立場から講師役を務め、発生のメカニズムを解説して地震に備えることの必要性を訴えた。

授業は2クラスで50分ずつの力が地表に伝わるのが地実施。小坂校長は「地下の震」と説明。今回のような直岩盤に大きな力が加わり、その下型地震を起こす活断層の動



熊本・大分で相次ぐ発生受け

地質学研究の校長 特別授業

きに触れ、「日本列島は地殻変動が激しく、うまく地震と付き合うことが大事」と述べた。

2011年6月に松本市で震度5強を観測した地震の後、小坂校長が代表を務める信大震動調査グループが市と共にまとめた「揺れやすさマップ」も紹介。同じ市内でも地盤の性質により、揺れやすさが異なることを示した。

授業を受けた浜陽彦さん（12）は、地震の規模を示すマグニチュード（M）について質問し、「地震の話をしつくり聞くことはなかったので、いい経験だった」。諏訪市から通う大矢千夏さん（12）は、14日に熊本県で起きた地震の際、諏訪でも震度1を観測したと聞き、「諏訪地域もいつ大きな地震が来るか分からない。安全対策を家族とも相談したい」と話していた。

授業後に小坂校長（左）に質問する松本秀峰の生徒たち